

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531003

研究課題名(和文) 養護教諭志望学生の「省察力」育成を目指した学内実習の授業モデル開発

研究課題名(英文) Development of a training model to promote Yogo teacher Students' reflection ability

研究代表者

後藤 ひとみ (HITOMI, GOTO)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20186894

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、養護教諭を目指す学生たちの実践力の育成を目的としており、彼らが学内で行う実習を通して「省察力」を身に付けるための授業モデルを開発するものである。

平成23年度は、学内実習の授業記録の収集を行った。平成24年度は、省察力育成の手法を検討し、シンガポールNIEを訪問して関係資料を入手した。平成25年度は、シンガポールNIEを再度訪問してリフレクションのための評価シートを入手し、複数の関係学会で研究成果(リフレクション・サイクルを意識して授業内容を組み立てる必要があること、模擬体験をさせてから自己省察の機会を設定することなど)を発表することができた。

研究成果の概要(英文)：This study is aimed to promote the practice ability of Yogo teacher students and to develop a training model to get "reflection ability" in the class of the university.

We collected class records of the training in the our university in 2011. We examined technique of promote "reflection ability" and We obtained some document on the Singapore NIE in 2012. We visited the Singapore NIE again and obtained an evaluation sheet for reflection and announced the results of research in plural societies concerned. We visited the Singaporean NIE again and obtained an evaluation sheet for reflection, furthermore we were able to announce the results of research (a course content constitutes being conscious of a reflection cycle, the opportunity of self-reflection in role play is set up, etc.) at societies in 2013.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育方法

キーワード：養護教諭養成 省察力 学内実習 養護実践力 疑似体験 授業モデル リフレクション シンガポール

1. 研究開始当初の背景

教師の専門的力量については、「実践的状况における省察 (reflection) と熟考 (deliberation) の実践的見識に求められている」との指摘があり、「状況と対話する思考力 (reflection-in-action) と自分の実践を複眼的に省察する力量 (reflection-on-action)」こそが、教育実践の質を総体的に向上させてゆく実践的指導力の中核である」と言われてきた。

実践的状况の中で熟考し、省察する力は、子どもたちの多様な問題に対応している養護教諭にとっても欠くべからざる能力であり、省察から得た経験知の蓄積は1校に1名配置が基本である養護教諭だからこそ、一層求められる能力とも言える。

日本養護教諭教育学会では、学会共同研究として「養護教諭養成におけるカリキュラムの検討」(1997年度～1998年度)が行われてきた。さらに、日本教育大学協会全国養護部門でも、「21世紀における養護教諭養成教育のあり方に関する報告書」(1996年度)を発展させて2004年にはモデル・コア・カリキュラムが提示された。

これらの研究に我々も参加してきたが、教育内容を主としたカリキュラム研究であったため、「省察力」の育成に着目したり、そのための授業方法を具体的に検討したりするものには至っていなかった。

そこで、経験知にもつながるような省察力をもった養護教諭志望学生の育成を目指した授業方法を検討するために、日本養護教諭教育学会の研究助成を受け、2006年度～2007年度に「養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討」を行った。

これまで、実践力育成を目的とした教師教育研究では、教育実習やその事前・事後指導を取り上げたものが多くみられる。しかしながら、事前指導や事後指導だけでは反省的実践につながるような省察を十分に学ばせる

ことが難しいとの指摘があり、学生の思考過程に向き合う時間の確保や指導法の工夫、カリキュラムの再構築などが示唆されている。

そこで本研究では、教育実習(養護教諭の場合は養護実習である)の事前・事後指導に比べると時間を確保して展開することができる学内の実習科目(学内実習と称する)において行われるべき授業内容と授業方法を開発し提案する。

この成果によって、講義や演習ではなく、「実習」という授業形態を生かし、実地の場を想定した中で「省察」することのできる授業の進め方が明らかとなり、省察力をもって「確かな実践力」を備えた養護教諭となる学生の育成に貢献できると考える。

2. 研究の目的

養護教諭は学校教育法に規定されている教育職員であり、その役割については、2008年1月17日の中央教育審議会答申において、「現代的な健康課題の解決に向けて重要な責務を担っている」と評されているように、今後ますます期待されている。

そこで、養護教諭を目指す学生たちが卒後に発揮することのできる「確かな実践力」の育成を目的として、省察力に着目して、学内実習(演習や実験ではなく、学校現場を想定したバーチャルな場面での実地的な学習)という形態による授業方法の開発を行うことにした。

3. 研究の方法

養護教諭の実践について学ぶ「学内実習の科目(例えば、愛知教育大学における養護活動実習)」の分析をもとに、「省察力」の育成につながるような授業内容・授業方法を検討し、他大学での活用にむけたモデルの作成を試みた。具体的には下記の通りである。

(1) これまでの研究によって把握できた

「養護教諭の実践を扱っている実習科目（「養護活動実習」などと称する学内での実習）」を対象として、授業内容及び授業方法の分析を行った。

(2) 省察力の育成に必要な授業方法について、国内及び国外の教師教育から学んだ。

（国内ではケース・メソッドやアクション・ラーニングの研修を行い、国外ではシンガポール NIE を訪問して関係資料の入手を行った。）

(3) それらの授業方法を導入して、新たな「養護教諭の実践を扱う実習科目」の授業構想を具体化した。

(4) 担当科目の中で試行し、その成果を検証した。（シンガポール NIE のリフレクション・サイクルを参考として、従前の養護活動実習における活用を検討するため、授業計画や学生のレポートなどの記録物を資料として、省察が行われる体験場面や問いかけの仕方などを検討した。）

(5) 検討結果から、養護教諭としての「確かな実践力」の育成を目的として、養護実習の前後に学内実習を設定し、その中で学生たちが「省察力」を身に付けていくことができるような授業モデルづくりを試みた。

4. 研究成果

前述の研究方法にそって次のようにまとめた。

(1) 学内実習「養護活動実習」の分析からみえてきたこと

学生たちに養護教諭の実践について学ばせる授業科目は、教育職員免許法では「養護に関する科目」の中の「養護概説」、「健康相談活動の理論及び方法」、「学校保健」であり、「教職に関する科目」の中では「養護教諭論（または教師論）」、「養護実習」などである。これらの科目において、授業担当者が養護教諭経験を有していると、体験で得た事例を紹

介したり、実務の解説をしたりすることが一般的である。しかし、このような体験重視の解説型授業では、学生自身が省察（reflection）したり、熟考（deliberation）したりする機会が少なく、ノウハウを伝える「教え込み」授業になりがちである。

そこで、我々の共同研究の中でも先駆的に学内実習に取り組んできた愛知教育大学の授業「養護活動実習」について再整理し、日本教師学会では「学生の省察力育成を目指した学内実習の意義と効果 - 仮想学校での模擬体験を活用した養護活動実習を例に - 」と題し、日本教育大学協会研究集会では「養護教諭志望学生の省察力育成を目指した学内実習の展開 - 仮想学校における体験を中心として - 」と題して発表した。

省察のための重要な基盤として「仮想学校づくり」を提案した結果、参加者からはユニークで面白い取り組みであるとの好評を得た。また、仮想学校づくりに取り組んだ後の授業感想レポートから、学生たちは「学校という存在の意味」や各校の「教育目標の意義」に気づく様子が捉えられ、学内で行う実習における場面設定の大切さを示唆できた。

(2) 省察力の育成に効果的な授業方法の検討

昨今、様々な手法が大学の教育方法として導入されている。その中でも、手法の解説において省察という言葉を使用している方法に着目し、我々がモデル化しようとしている学内実習の授業方法として役立つかどうかの検討を行った。

まず、ケース・メソッドについて、大学教育に活用している慶應義塾大学を訪問し、担当教員からの説明を聞いた。結果、事例をもとに、グループワークなどの討議を通して様々な事柄の分析を行う手法であることが理解できた。よって、事例検討をさせる際には活用できるが、専門的力量を高めるための

省察力育成を目指した手法としてはあまり適さないとされた。

次に、アクション・ラーニング協会が掲げている省察の内容を理解するために研修に参加した。アクション・ラーニングは、守秘義務に配慮して、実際に起こっている現実の問題を5名前後のチームで質問会議という形態で検討し、問題を抱えている本人が解決のイメージを具体化して行動計画をたてるという方法である。途中や最後に、コーチが振り返りを行わせる場面があり、省察ということが意識的に行われるようなプログラムになっている。よって、このプログラムの流れから、我々が構想している省察力育成のプログラムに役立つ内容が得られ、学生たちに行ったワークショップでも、友人が有する問題の解決過程にかかわることで、様々な振り返りが行われる様子が捉えられた。

(3)シンガポール NIE による学び

国家レベルで教員の目的養成を行っていること、渡航中も安全な国であること、教師教育の専門家から紹介された国の一つであることからシンガポール NIE を海外の研修先として選定した。

最初の訪問では、シンガポールの教育体制や NIE 組織について知ることができた。その際、教育実習に関するプログラムと評価の資料を撮影してきたが、その詳細を知る時間はなかった。そこで、半年後に再度の訪問を行い、NIE での教育方法について学び、先に撮影した資料の新版をデータで受け取ることができた。評価の観点などは、プログラムにおける実習状況において若干異なるが、膨大な量であるため、全体の和訳には時間が必要である。

入手資料は教育実習を中心に構成されているものだが、このうちのリフレクション・サイクルは本研究における授業モデル開発に役立つことから、先んじて和訳し、日本養

護教諭教育学で「養護教諭の実践力育成を目指したりフレクション・プログラムの検討 - シンガポール NIE の教師教育を参考として - 」と題して報告した。

(4)養護教諭志望学生の「省察力」育成を目指した学内実習の授業モデルについて

省察力育成のためには、何について、どんな場面で、振り返りを行わせるかという「省察場面の設定」が重要な要素であると言える。

その試行として、本研究では、仮想学校づくり、模擬体験（ロールプレイ）を中心とした学内実習の分析を行い、場面設定が実践的なものであれば、学生の気づきはより具体的になることを確認した。

このことから、授業モデルの基本は、実践的な場面をどのような背景の中で設定するか、そこでの模擬体験をどのようにさせるかであることが捉えられた。

さらに、アクション・ラーニングの学びから、省察(reflection)には熟考(deliberation)の機会が必要であることもわかった。つまり、考えるという場面設定なくして、省察には至らないということである。これに関連して、シンガポール NIE が提示しているリフレクション・サイクルは、省察への問いかけと省察のプロセスを捉える枠組みとして有効である。

これらの所見をもとに、これまでの学内実習（養護活動実習 ・ など）の内容及び方法を見直し、関係学会に投稿する予定である。見直しのポイントは、シンガポール NIE が教育実習に関して細かな観点や問いを用意しているように、到達目標を意識したりフレクションポイントを提示することである。合わせて、学内実習という授業形態を重視して、「省察場面」の例示も行うことで、授業プログラム試案を提示したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

斉藤ふくみ、小玉正志、新井猛浩、笠巻純一、河田史宝、中下富子、竹鼻ゆかり、岡田加奈子、後藤ひとみ、北口和美、高橋香代、田嶋八千代、上村弘子、本田優子、松田芳子、山梨八重子：養護教諭養成モデル・コア・カリキュラムに関する研究—「養護に関する科目」における科目区分の検討、学校保健研究、第55巻第3号、P.228-243、2013(査読あり)

中下富子、河田史宝、小玉正志、新井猛浩、笠巻純一、斉藤ふくみ、竹鼻ゆかり、岡田加奈子、後藤ひとみ、北口和美、高橋香代、田嶋八千代、上村弘子、本田優子、松田芳子、山梨八重子：養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム「養護に関する科目」における現行カリキュラムの開講状況 - 5領域別の教育内容に視点を当てて -、学校保健研究、第55巻第3号、P.244-253、2013(査読あり)

金子寛子、青嶋裕子、浅田知恵、五十嵐利恵、石田妙美、今野洋子、小澤美奈子、河田史宝、北村米子、黒田千代江、後藤多知子、後藤ひとみ、佐藤さよ子、佐藤順子、下村淳子、鈴木薫、樋口久美代、田嶋八千代、西川優子、松原紀子、丸田幸子、山崎隆恵：健康相談活動に必要な能力(力量)の枠組みについての検討(3) - 能力を構成する要素と対応プロセスから捉えた能力 -、日本健康相談活動学会誌、第8巻第1号、P.171-181、2013(査読あり)

〔学会発表〕(計 3件)

斉藤ふくみ、後藤ひとみ、今野洋子、松田芳子：養護教諭の実践力育成を目指したリフレクション・プログラムの検討 - シンガポ

ル NIE の教師教育を参考として -、日本養護教諭教育学会第21回学術集会(2013年10月12日~13日)、シーサイドホテル舞子ビラ神戸

後藤ひとみ、斉藤ふくみ、松田芳子：養護教諭志望学生の省察力育成を目指した学内実習の展開 - 仮想学校における体験を中心として -、平成25年度日本教育大学協会研究集会(2013年10月5日)、札幌全日空ホテル

後藤ひとみ、斉藤ふくみ、松田芳子、今野洋子：学生の省察力育成を目指した学内実習の意義と効果 - 仮想学校での模擬体験を活用した養護活動実習を例に -、日本教師教育学会第23回研究大会(2013年9月15日~16日)、佛教大学

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

後藤ひとみ(GOTO, Hitomi)
愛知教育大学・教育学部・教授
研究者番号：20186894

(2)研究分担者

斉藤 ふくみ (SAITO, Fukumi)

茨城大学・教育学部・准教授

研究者番号：30336193

松田 芳子 (MATSUDA, Yoshiko)

熊本大学・教育学部・教授

研究者番号：70209576

(3)連携研究者

()

研究者番号：